凡　　例

1. 用字用語については、原則として常用漢字、現代かなづかいを用いることにしたが、専門用語、慣用語などについては、これによらないものもある。
2. 引用文については次のとおりとした。
   (1) 用字用語等は原本のままとしたが、字体は新字体を使用し、また適宜句読点・濁点・半濁点を付した。なお仮名の繰返し符号は用いないことにした。
   (2) 引用文中明白な誤植と思われるものはすぐ上に〔ママ〕と付記した。
   (3) 引用者の注記は〔　　〕内に記載した。
   (4) 省略は……または〔中略〕で示した。
3. 引用文献、参考文献の注記は次の例によった。
   (1) 単行本は、著者名『書名』出版社、発行年、引用ページの要領で記載した。ただし欧文書の場合は著者名，書名（発行地，発行年），引用ページの要領で記載し、書名はイタリックで示した。
   (2) 全集本は、単行本に準じ記載し、巻名を書名の次に掲げた。
   (3) 雑誌論文は、筆者名「論文名」（『雑誌名』通巻番号、発行年月）引用ページの要領で記載した。
   (4) 資料集掲載の資料は、著者名「資料名」（編者名『資料集名』巻名、出版社、発行年、所収）引用ページの要領で記載した。
   (5) 同じ節〔1. 2. 3.……で表示の見出し〕中で再出の引用文献は、原則として前掲『書名』巻名〔または「論文名」、「資料名」〕、引用ページの要領で記載したが、連続して掲記するときは上掲書、巻名、引用ページもしくは同上、引用ページの要領で記載した。欧文書の場合は著者名のあとに *op. cit.*，引用ページまたは *Ibid.*，引用ページの要領で記載した。
4. 外国の人名は初出の場合に限り原則として原語を付記した。外国の国名、地名、銀行・会社・機関名、国際行事名称等の原語付記はとくに必要と認めたもののみにとどめた。
5. 人名の敬称は現存者を含めすべて省略した。
6. 数字はアラビア数字を用い、億・万の単位を使用した。単位未満の端数は四捨五入した。
7. 暦年は原則としてわが国の年号によったが、海外事項は西暦で表示した。ただし各項〔(1)(2)(3)……で表示の見出し〕中初出の場合に限り、邦暦と西暦（または逆に西暦と邦暦）を併記した。
8. 法令の日付は原則として公布年月日を掲げた。